

- 問1 北海道ではパルプ・紙・紙加工品製造業が地域の主要な産業の一つとなっています。この工業が北海道で発達した背景として、最も適切な理由を選びなさい。(2021年 京都公立入試 類似)
- 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため
 - 大規模な消費地である東京圏に隣接しているため
 - 海外から輸入した木材チップの加工に特化した貿易港があるため
 - 内陸部に高度な技術を持つ機械部品工場が集積しているため
- 問2 北海道の北東側に位置するオホーツク海から、冬に沿岸へ押し寄せ、解ける際に多くの栄養分を海に供給する水の塊を何というか。(2025年 青森県公立入試 類似)
- 流水
 - 親潮
 - 季節風
 - 寒流
- 問3 北海道の沿岸部に位置する各都市と、それらが面している海域の名称の組み合わせとして、地理的な位置関係が正しいものはどれですか。(2016年 京都公立入試 類似)
- 小樽市は日本海に面しており、網走市はオホーツク海に面している。
 - 小樽市はオホーツク海に面しており、網走市は日本海に面している。
 - 小樽市は太平洋に面しており、網走市は日本海に面している。
 - 小樽市は日本海に面しており、網走市は東シナ海に面している。
- 問4 北海道東部の太平洋側において、夏に発生する濃霧がもたらす低温や日照不足といった気候条件に適応するために、この地域で古くから発展してきた農業の特徴はどれですか。(2024年 鹿児島県公立入試 類似)
- 冷涼な気候でも育つ牧草を利用し、乳牛を育てる大規模な酪農を行う。
 - 温暖な気候が必要な米の品種改良を進め、広大な平野で二毛作を行う。
 - 山地を切り開いて段々畑を作り、水はけを良くして果樹栽培を行う。
 - 夏の涼しさを利用して、東京などの大消費地向けにレタスなどの高原野菜を栽培する。
- 問5 日本国内の農産物統計において、北海道が全国の収穫量の100パーセントを占めており、主に砂糖の原料として利用される農作物はどれですか。(2016年 山口公立入試 類似)
- てんさい
 - さとうきび
 - じゃがいも
 - こんにゃくいも
- 問6 北海道東部の釧路市周辺には広大な湿地が広がっています。この地域の自然環境と農業について述べた文として正しいものはどれですか。(2021年 宮城県公立入試 類似)
- 夏季に発生する霧の影響で気温が上がりにくいため、稲作よりも、冷涼な気候に適した酪農が盛んに行われている。
 - 冬に北西から吹く湿った季節風が山脈に突き当たり、世界有数の豪雪地帯となるため、冬の間の農業は行われない。
 - 広大な湿地を干拓して大規模な水田地帯が作られており、石狩平野と並ぶ北海道有数の米の産地となっている。
 - 年間を通じて温暖な対馬海流の影響を強く受けているため、冬でも雪がほとんど降らず、野菜の促成栽培が行われている。
- 問7 北海道東部の根釧台地において、稲作ではなく酪農が盛んに行われている理由として、その土地の自然環境について正しく説明しているものはどれですか。(2018年 長野県公立入試 類似)
- 夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい寒冷な気候であり、作物の栽培よりも牧草の生育に適しているため
 - 火山灰が堆積した土地で水持ちが悪く、大規模な灌漑施設を整備して水田を開発することが困難であったため
 - 年間を通じて温暖で降水量が少なく、乳牛の病気を防ぐために乾燥した土地を利用する必要があったため
 - 広大な平坦地が広がり、大型機械を用いた大規模な小麦や大豆の栽培に特化した方が効率的であったため
- 問8 北海道の内陸部に位置する地域の気候の特徴について、ある地点の統計を確認したところ、1月の平均気温がマイナス20度近くまで下がり、年間のすべての月において降水量が100mm未満という非常に少ない数値を示していました。この地域の気候について正しく述べたものはどれですか。(2019年 富山県公立入試 類似)
- 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。
 - 対馬海流の影響を強く受けるため、冬に雪が多く、年間降水量が2000mmを超える。
 - 夏に「やませ」と呼ばれる冷たい北東風の影響を強く受け、夏でも霧が発生しやすい。
 - 季節風の影響で冬の降水量は多いが、夏は太平洋高気圧の影響で乾燥する。
- 問9 北海道の地形や都市の配置について説明した次の文章のうち、地理的状況を正しく説明しているものはどれですか。(2016年 京都公立入試 類似)
- 道北の稚内市から海岸線沿いに南東方向へ進むと、オホーツク海に面した網走市に到達する。
 - 内陸盆地に位置する旭川市から西へ進むと、オホーツク海に面した小樽市の港が見える。
 - 道南の志苔館跡や洞爺湖がある地域は、主にオホーツク海の影響を強く受けている。
 - 日本海に面した網走市では、冬にカリブ海から流れてくる流水を観察することができる。
- 問10 夏の北海道東部の太平洋沿岸では、濃霧（海霧）が発生しやすいため、8月の日照時間が約127時間にとどまる釧路のように、札幌（約171時間）と比較して日差しが遮られる傾向があります。この濃霧を発生させる要因となる、北海道の東側を南下する寒流の名称を次の中から選びなさい。(2021年 茨城県公立入試 類似)
- 千島海流（親潮）
 - 日本海流（黒潮）
 - 対馬海流
 - リマン海流
- 問11 北海道における外国人宿泊客数の月別統計を見ると、1月から3月にかけての時期に数値が大きく上昇するという特色があります。この時期に観光客が多く訪れる理由として、最も適切な説明はどれですか。(2021年 茨城県公立入試 類似)
- パウダースノーと呼ばれる良質な雪でのスキーや、雪まつりなどの行事を目的に訪れるため。
 - 本州よりも早く開花するサクラの鑑賞や、春の大型連休を利用した旅行者が増えるため。
 - 梅雨がなく、ラベンダーなどの花々が満開になる夏の涼しい気候を避暑目的で好むため。
 - 秋の紅葉シーズンに合わせ、新幹線を利用して広大な農地の収穫風景を見学に来るため。
- 問12 北海道の産業別就業者数に関する特徴として、最も適切な記述はどれか。(2025年 青森県公立入試 類似)
- 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。
 - 大規模な工業団地が多く、第2次産業の割合が全産業の中で最も高い。
 - 大消費地である東京に近いため、近郊農業による第1次産業の割合が全国で最も高い。
 - 第1次産業から第3次産業まで、それぞれの就業者割合がほぼ均等になっている。
- 問13 石狩川流域では、かつて植物が完全に分解されずに堆積した「泥炭地」と呼ばれる湿地が広がっていました。この土地を大規模に開発し、農地や市街地として利用するために行われた工夫として、最も適切なものはどれですか。(2021年 茨城県公立入試 類似)
- 排水路を整備して水を抜き、別の場所から土を運び入れる客土を行う
 - 大規模な植林を行い、地中の水分を吸収させて森林面積を拡大させる
 - 周辺の山々から大量の水を流し込み、人工的な湖を作って水運を盛んにする
 - 地面の下にある岩盤を削り、土地を平坦にしてから地下水を注入する

答え合わせ・解説

問1	答え 1 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため	パルプ・紙・紙加工品製造業は、木材を原料とするため、森林資源が豊富な地域で発達しやすいという特性があります。北海道は日本全体の森林面積の多くを占めており、この豊かな森林資源を背景に製紙業などが地域の主要産業へと成長しました。
問2	答え 1 流氷	冬にシベリア方面からオホーツク海を南下してくる氷の塊であり、北海道の沿岸に接岸する現象である。アムール川などからの豊富な栄養分を含んでおり、豊かな生態系を支える要因となっている。親潮（千島海流）は寒流の一種であり、海流そのものを指すため、氷の塊である流氷とは異なる。
問3	答え 1 小樽市は日本海に面しており、網走市はオホーツク海に面している。	北海道は周囲を複数の海域に囲まれています。西側の石狩湾に面した小樽市は日本海側に位置し、歴史的に北前船の寄港地としても発展しました。一方、北海道の北東部に位置する網走市は、冬に流氷が接岸することで知られるオホーツク海に面しています。太平洋は北海道の南側から東側にかけて広がっています。
問4	答え 1 冷涼な気候でも育つ牧草を利用し、乳牛を育てる大規模な酪農を行う。	道東の太平洋側では、夏の濃霧による日照不足や低温（冷害）の影響で稲作が困難でした。そのため、冷涼な気候でも育つ牧草を栽培し、それを飼料として牛を育てる酪農が発展しました。特に根釧台地などは、日本を代表する酪農地帯として知られています。
問5	答え 1 てんさい	この農作物は寒さに強いという特性を持っており、日本では冷涼な気候に適した北海道のみで栽培されています。別名「ビート」とも呼ばれ、沖縄県などで栽培されるさとうきびと並んで、日本の砂糖生産における主要な原料となっています。
問6	答え 1 夏季に発生する霧の影響で気温が上がりにくい ため、稲作よりも、冷涼な気候に適した酪農が盛んに行われている。	釧路湿原に代表される道東の太平洋側は、夏の季節風と寒流の影響による海霧で気温が上がらないため、米作りには適していません。そのため、この冷涼な気候を活かして、乳牛を飼育する酪農が大規模に行われています。選択肢にある「豪雪地帯」は主に日本海側の特徴であり、「温暖な海流」や「促成栽培」は宮崎県や高知県などの南日本の特徴です。
問7	答え 1 夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい 寒冷な気候であり、作物の栽培よりも牧草の生育に適しているため	根釧台地などの北海道東部は、夏に千島海流（親潮）の上を通る湿った空気が冷やされて「移流霧（海霧）」が発生し、日照不足と低温をもたらします。この気候は稲作には不向きですが、寒冷な気候でも育つ牧草の生産には適しています。そのため、その牧草を飼料として乳牛を育てる酪農が、地域の特色ある産業として定着しました。
問8	答え 1 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。	北海道の内陸部は、海から遠く離れているために海による気温調節機能が働かず、放射冷却現象などの影響で冬の気温が極端に低くなります。また、周囲を山々に囲まれていることから、海からの湿った空気が入り込みにくく、日本海側などの沿岸部と比較しても年間降水量が少なくなるのが特徴です。
問9	答え 1 道北の稚内市から海岸線沿いに南東方向へ進むと、オホーツク海に面した網走市に到達する。	北海道の北端にある稚内市は日本海とオホーツク海の境界に位置しており、そこから東側の海岸線を下ると網走市があるオホーツク海沿岸に至ります。旭川市は内陸の盆地に位置し、その西側にある小樽市が面しているのは日本海です。また、流氷が押し寄せるのは北海道の北東に位置するオホーツク海であり、カリブ海や東シナ海はこの地域には存在しません。
問10	答え 1 千島海流（親潮）	北海道の東側の太平洋岸には、北の千島列島方面から冷たい海水が流れてくる寒流の千島海流（親潮）が通っています。夏の湿った空気がこの冷たい海面によって冷やされることで水蒸気が凝結し、大規模な濃霧が発生します。これにより、釧路などの地域では夏の日照時間が短くなります。
問11	答え 1 パウダースノーと呼ばれる良質な雪でのスキーや、雪まつりなどの行事を目的に訪れるため。	北海道の観光は、かつては夏が主流でしたが、近年は東アジアなどの雪が少ない地域から、良質な雪（パウダースノー）を求めて冬に訪れる外国人が急増しています。1月から3月はスキーやスノーボードといったウィンタースポーツに加え、さっぽろ雪まつりなどの冬のイベントが充実しているため、宿泊客数が多くなる傾向にあります。
問12	答え 1 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。	北海道は、十勝平野での畑作や根釧台地での酪農など、広大な土地を生かした農業が基幹産業の一つとなっており、第1次産業の就業者割合が約6%と全国平均よりも高い水準にある。一方で、就業者数の構成比としては、サービス業などの第3次産業が約76%と大半を占めており、第2次産業が中心というわけではない。
問13	答え 1 排水路を整備して水を抜き、別の場所から土を運び入れる客土を行う	石狩川流域に広がる泥炭地は、水分が非常に多く農業には適さない土地でした。そのため、開拓にあたっては排水路を設けて湿地の水を抜くだけでなく、他の場所から性質の異なる土を運び入れる「客土（かくど）」という作業が行われました。これにより、もともとの泥炭地は稲作などが可能な広大な農地や、人々が暮らす市街地へと作り替えられました。